

春季大会二日目（五月二六日（日）午前一〇時〜午後一時）  
若手研究者ワークショップ発表者一覽

第一会場

〔個人発表〕

文章と声のあいだ

―谷崎潤一郎『文章読本』をめぐる

〔パネル発表〕

「大東亜」の文学、往来のアイデンティティ

―台湾・朝鮮・満洲・中国を例として

張 鈴・高橋 梓・魏 晨・李 芸蓁・許 時嘉

林恵美子

第二会場

〔個人発表〕

「告白劇」としての三島由紀夫『サド侯爵夫人』

冉 小嬌

〔パネル発表〕

延焼する「アクチュアリティ」

―純文学論争の周辺をめぐる

茂木謙之介・木村政樹・西田桐子・仁平政人

第三会場

〔個人発表〕

村上春樹の小説における暴力と〈自慰的幻想〉について

徳江 剛

〔パネル発表〕

現在の若手女性作家を問う

―ジェンダー・身体・労働・言語―

泉谷瞬、陳 晨、徐小雅、越川瑛理、Emanuela Costa

第四会場

〔個人発表〕

「詩」と「史」における美の概念

―樗牛と逍遙の歴史劇・歴史画論争から―

文学と法 与謝野晶子の短編集における「養子」制度を事例として

Raj Laxhi Sen

泉鏡花のリアリズム

―明治四〇年代における「自己」をめぐる表現―

宮沢賢治作品における大正モダニズム期の要素

尾形龜之助の詩における「中」とは何か

―『色ガラスの街』から『雨になる朝』までの作品を中心に―

岩下祥子

第五会場

〔個人発表〕

横光利一「花園の思想」における虚無と死の美

岸田戯曲にみる「自由」

―『古い玩具』『歳月』『椎茸と雄弁』を中心に―

金鶴泳と雑誌『漢陽』

―その政治的な文脈と「うすのろ」というテキスト―

都市のアナキズム

―安部公房『内なる辺境』の脱構築的批評―

大庭みな子『がらくた博物館』

―ブリコラージュの可能性―

西井弥生子

花澤哲文

益田 拓

頼 怡真

羽原卓也

小田切璃紗

李 正熙

大場健司